

りんご腐らん病の発生が多い

～ 園地を見回り、発病部位を速やかに処置してください ～

1. 病害虫名：腐らん病
2. 発生作物：りんご
3. 発生地域：全県
4. 発生時期：－
5. 発生量：多い

6. 注意報発表の根拠（現在までの発生状況と今後の発生予想）

3月1～3半旬の巡回調査における発病樹率は3.4%（平成1.2%）、発病地点率は40.9%（平成17.5%）でいずれも高かった（表-1）。特に主幹や主枝などの太い枝に発生する胴腐らんは近年増加傾向にあり、発病地点率は22.7%（平成3.1%）で平成の約7倍となった（図-1）。

病斑は平成では3月上旬頃から確認できるようになるが、本年は気温が高く推移しているため、既に病斑の拡大が急速に進んでいる（図-2）。

胴腐らんは腐敗部位が拡大すると樹体が大きく欠損し、治癒や樹勢回復が難しくなるため、早期に園地を見回り、速やかに発病部位を処置する必要がある。

7. 防除対策

（1）早期発見のための樹体検診と予防

- ① 本年は園内に雪が少なく樹上部にある病斑を見つけにくいいため、注意深く観察し、剪定終了後にも再度園地を見回り早期発見に努める。
- ② 発病部位はアメ色に変色したり、上部が発芽しなかったり枯死する場合もある（図-3、4）。
- ③ 枝腐らんが集中している場合は近くに伝染源の胴腐らんがあるので周囲をよく観察する。
- ④ 剪定後の切口にはその日のうちに塗布剤（トップジンMペースト又はバッチレート）を塗る。
- ⑤ 肥培管理の不良や樹勢低下なども多発要因となるため、適正な栽培管理と総合的な防除対策を講じる。

（2）胴腐らんの処置

- ① 粗皮削りを行うと病斑を発見しやすいため、発生が見られる園地では必ず実施する。
- ② 病原菌は腐敗した病斑外周の健全部にも侵入しているため、健全部を含め紡すい状に大きく、木質部に対して垂直になるように削り、塗布剤（トップジンMペースト又はバッチレート、成木の場合はトップジンMオイルペーストも可）を塗る。削り屑は放置せず直ちに処分する。
- ③ 腐敗部が幹周の2/3以上に拡大した場合は、治癒が極めて困難であるため、放置せず速やかに伐採し処分する（図-3右）。
- ④ 泥巻きは病斑部を削り、草付き土に水を加えて団子状にこねた泥で覆い、ビニールなどを巻く。
- ⑤ 前年に処置した泥巻きや削り取り部位は治癒状況を確認し、治癒していない場合は再度処置する。

（3）枝腐らんの処置

枝腐らん（図-4）は見つけ次第剪去し（胴腐らんと同様に病原菌は健全部にも侵入しているため、境界から5cmの健全部を含める）速やかに焼却する。剪去後の切口にはその日のうちに塗布剤（トップジンMペースト又はバッチレート）を塗る。

8. 資料

表-1 腐らん病の発生状況(3月)

	発病樹率(%)			発病地点率(%)								
	R 2	平年	概評	胴腐らんの発病樹率(%)			枝腐らんの発病樹率(%)			R 2	平年	概評
				R 2	平年	概評	R 2	平年	概評			
県北部	7.5	2.4	多	1.3	0.3	多	6.6	2.0	多	62.5	29.3	多
県中央部・県南部	1.1	0.6	多	0.6	0.1	多	0.8	0.4	やや多	28.6	10.0	多
全県	3.4	1.2	多	0.9	0.2	多	2.9	1.0	多	40.9	17.5	多

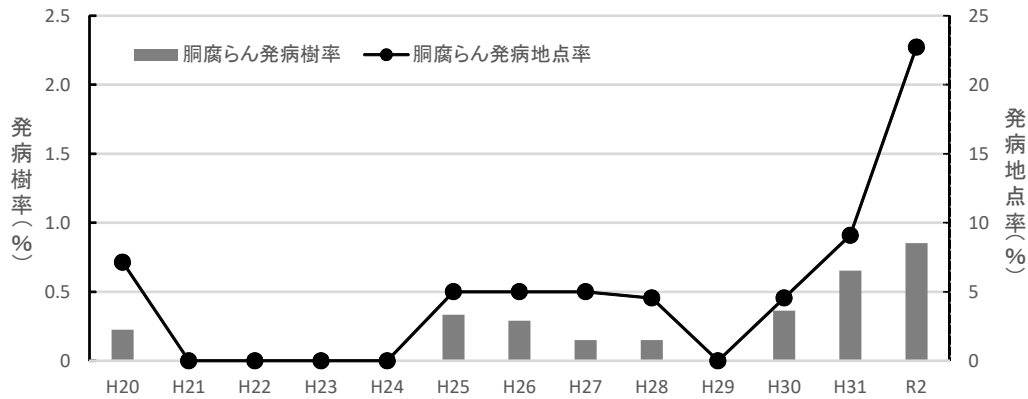


図-1 胴腐らんの発生推移 (3月)



図-2 病斑の拡大状況



図-3 胴腐らんの発生状況
 (左：腐敗部が幹周の1/2以下、右：幹周の2/3以上)



図-4 枝腐らんの発生状況

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL	018-881-3660
秋田県果樹試験場	TEL	0182-25-4224
かづの果樹センター	TEL	0186-25-3231
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/		